

2024年12月19日

株式会社 GF 御中

「(仮称) 嶺北香美ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書」に関する意見書

〒785-0023 高知県須崎市下分乙 470-1

認定特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター
理事長 濱田 哲暁

四国自然史科学研究センターは森林生態系及び生物多様性保全の観点から「(仮称) 嶺北香美ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書(以下、配慮書)」に対して、意見を述べる。

本計画は高知県に残された貴重な齢温帯林に対して大きな改変を行い、森林生態系に対して甚大な影響を及ぼすことが懸念されるため、計画の中止もしくは対象事業実施区域の抜本的な見直しおよび設置基数の大幅な削減を求める。

1. 本事業計画予定地の北東部分の自然林等を計画地から除外すべき

事業実施予定区域に、特定植物群落「青ザレ山と周辺の植生」の範囲の約2/3が含まれており、一部は高知県の奥物部県立自然公園の第3種特別地域に指定されている区域も含まれている。青ザレ山周辺には、四国山地の分布南限・標高下限域に位置するブナ林が分布し、学術的にも貴重な森林である。下記に述べるツキノワグマやニホンカモシカ等の絶滅のおそれのある野生動物も予定区域及びその周辺で生息が確認されている等、生物多様性保全上、重要な地域であるため、事業実施予定区域から除外すべきである。

2. 四国山地のツキノワグマ個体群への影響を回避するよう求める

四国山地のツキノワグマ個体群は、絶滅の危険性が極めて高い危機的状況である。生息数は16頭から24頭と推定され、分布域も徳島県南西部から高知県北東部の剣山周辺地域に限られており、標高1,000m以上の自然度の高い落葉広葉樹林を主に利用している。個体群の絶滅を回避するためには、生息数の増加と生息環境の改善、拡大が不可欠である。

事業実施予定区域の北東側は高知県内で数少ないブナの分布地域となっており、第6回自然環境保全基礎調査及び平成30年度中大型哺乳類分布調査では、ツキノワグマの分布が設置予定範囲及び隣接地で確認されている。分布が確認されている範囲から事業実施予定区域までは、連続的に落葉広葉樹林が存在し、良好な生息環境が維持されているため、将来的な分布回復の候補地としても重要であると考えられる。配慮書においても、生息環境の改変による生息への影響の可能性があると予測されており、好適な生息環境の消失は、高知県における本種の存続に限らず、四国山地個体群全体の存続に甚大な影響が出ること

が懸念される。

ツキノワグマの個体数が少なく絶滅リスクが非常に高いことから、わずかな個体への影響が個体群全体の存続へ影響すると考えられるため、事業実施による影響の予測及び評価は地域個体群全体として考える必要があり、クマ類の調査の十分な経験と知識を持った者による適切な調査、予測評価、保全措置を行う必要がある。

3. ニホンカモシカへの影響を回避するよう求める

国の特別天然記念物であるニホンカモシカ（以下、カモシカ）は、環境省のレッドリストで「四国地方のカモシカ」として「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されている。近年、個体群の衰退傾向が著しく、絶滅が懸念されている。

事業実施想定区域ほぼ全域で分布が確認されているが、特に北東部分は、四国山地カモシカ保護地域の予定域に接続し、カモシカにとって好適な生息環境である自然度の高い冷温帯落葉広葉樹林が残っており、この地域の良好な森林生態系の維持保全は今後のカモシカ保護にとって極めて重要である。適切な調査、予測評価を行い、必要に応じて対象事業実施区域の抜本的な見直しや事業規模の削減等の保全措置を検討し、カモシカへの影響を回避するよう求める。

2. コウモリ目について

四国ではキクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、アブラコウモリ、モリアブラコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、チチブコウモリ、ノレンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒナコウモリ、ヤマコウモリ、オヒキコウモリ科オヒキコウモリの3科16種が確認されている。この内、本配慮書では242ページには動物の重要な種としてチチブコウモリを掲載している。

当センターがこれまで行ってきた四国地域内におけるコウモリ目調査においては、本事業が行われる地域と同様な環境、すなわち高標高地域に見られるブナ・ミズナラなどで構成される冷温帯林の森林環境において、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、モリアブラコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、チチブコウモリ、ノレンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒナコウモリを確認していることから、本事業地域においてもこれらが生息していることが十分予想される。

とくにモリアブラコウモリ（環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、高知県レッドリストで情報不足、愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類）、テングコウモリ（愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類）、クロホオヒゲコウモリ（環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、徳島県レッドリストで準絶滅危惧、高知県レッドリストで情報不足、愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類）、ヒメホオヒゲコウモリ、チチブコウモリ（環境省レッドリストで四国のチチブコウモリは絶滅のおそれのある地域個体群、高知県レッドリストで情報不足、愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類）、ノレンコウモリ（環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、徳島県レッドリストで準絶滅危惧、高知県レッドリストで準絶滅危惧、愛媛県レッドリス

トで絶滅危惧Ⅱ類)、ニホンウサギコウモリ(環境省レッドリストで近畿地方以西のウサギコウモリは絶滅のおそれのある地域個体群、徳島県レッドリストで準絶滅危惧、高知県レッドリストで情報不足、愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類)は、いずれも四国内では主に高標高地域に見られるブナ・ミズナラなどで構成される冷温帯林の森林環境で確認されていることから、本事業において対象地内に風力発電施設の設置や運搬路などの整備によって森林環境の改変が行われた場合には、生息環境が消失し、個体群存続に甚大な影響が出るものと予想される。

また、ユビナガコウモリ、ヒナコウモリ(愛媛県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類)、オヒキコウモリ(環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、高知県レッドリストで情報不足、愛媛県レッドリストで情報不足)、ヤマコウモリ(環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、高知県レッドリストで情報不足)は高空飛翔を行うことから、風力発電施設の稼働が始まれば、バットストライクの影響を受けやすいと考えられる。

コウモリ目は欧米での風力発電アセスメントにおいて、最も影響を受ける分類群の一つとされ、その影響評価等において重点化されている。国内でもすでに風力発電機によるバットストライクが確認されており、本事業においても確実に起きる事象と予測して影響評価を行うことを求める。

以上